

読書のすゝめ

その25
H 30 / 10 / 24

第72回読書週間

10月27日(土)～11月9日(金) 14日間

標語大賞

「ホッと一息 本と一息」

【作者・沢田真紀さんのことば】

忙しい日常のひと時、5分でも10分でも本を読んで
いる間は本と自分だけの時間。ついついきりがつづられずホッとすればなしになるのが玉に瑕……
わたしのたいせつな時間です。



ポスター大賞【作者・さとみすずさん(東京都)のことば】

本を開けば瞬時にその世界が広がって、今いる場所が特別な空間になります。そして物語に没頭で
きる喜びや安心感を与えてくれます。本とともに、あたたかい時間を味わっていただけです。

※標語・ポスターは毎年公募しています。高校生以上に応募資格がありますので、HPなどで要項
を確認してください。

【読書週間の歴史】

1947年(昭和22)年、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと
出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17
日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第21
回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は
全国に広がっていきました。
そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民
の国」になりました。
いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしてい
ます。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに
「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。
暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれ
ていきませんか。(読書推進運動協議会HPから)

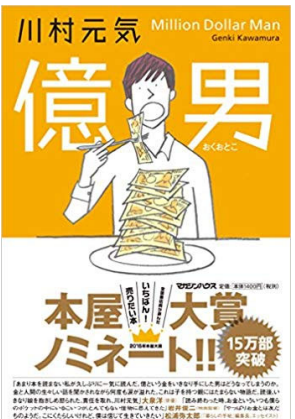
『日日は好日』『お茶』が教えてくれた15のしあわせ』

森下典子 新潮社

お茶を習い始めて二十五年。就職につまずき、いつも不安で
自分の居場所を探し続けた日々。失恋、父の死という悲しみの
なかで、気がつけば、そばに「お茶」があった。がんじがらめ
の決まりごとの向こうに、やがて見えてきた自由。「ここに
いるだけでよい」という心の安息。雨が匂う、雨の一粒一粒が聴
こえる……季節を五感で味わう飲びとともに、「いま、生きて
いる。」その感動を鮮やかに綴る。

『億男』 川村元気 マガジンハウス

宝くじで3億円を当てた図書館司書の一男。浮かれる間もな
く不安に襲われた一男は、「お金と幸せの答え」を求めて大富
豪となった親友・九十九(つくも)のもとを15年ぶりに訪ねる。
だがその直後、九十九が失踪した！
一男の30日間にわたるお金の冒険が始まる。人間にとってお金
とは何か? 「億男」になった一男にとっての幸せとは何か? 九
十九が抱える秘密と「お金と幸せの答え」とは?



※この秋 映画化されて評判になっている本ですが、ぜひ「文章」から自分の「絵」をつくって
みてください。